

安保法案の撤回を求める声明

2015年7月22日
市民政党「草の根」
代表 井原勝介

先日、衆議院において、安保法案の強行採決が行われ、参議院に送付された。

集団的自衛権の行使、後方支援の拡大を中心として自衛隊の活動範囲を大きく拡大することを目的としており、戦後一貫して大切にしてきた平和主義の原則を大きく転換し、他国と一緒に戦争に参加する道を開くものである。

憲法第9条のもとでは、我が国に対する武力攻撃を排除するための必要最小限度の武力行使は個別的自衛権として認められるが、我が国が武力攻撃を受けていないのに、他国の防衛を目的とする集団的自衛権の行使は認められないというのが確定した憲法解釈であり、この法案については、ほとんどの憲法学者が明確に違憲であると指摘している。憲法改正という正規の手続きをとることなく、閣議決定という政府の解釈変更で集団的自衛権の行使に踏み込むことは、憲法99条に規定する国務大臣等の憲法尊重擁護義務に違反し、立憲主義を破壊するものである。

国会審議などを通じて、国民に丁寧に説明しその理解を求めるという政府の声とは裏腹に、一向に国民の理解は深まらず、慎重な審議や廃案を求める国民の声は、日増しに強くなっている。

数の力をたのみ、憲法に反する法律を強引に成立させることは、到底許されるものではない。国民の声に真摯に耳を傾け、安保法案の速やかな撤回を求めるものである。